

ATAC ニュース 創刊記念対談

対談者

太陽刷子株式会社
(財)大阪科学技術センターATAC

社長 小倉 義生氏
副会長 荒川 守正

場所 (財)大阪科学技術センター会議室

日時 平成14年8月30日午後5時

このたびのATACニュース創刊を記念して、今年12年目を迎えたATAC事業の企画から設立までの苦労はもとより、その後の成長に献身的な努力を続けられATACの生みの親であり育ての親として今日まで、ATACとともに歩んでこられたお二人に対談していただくことにしました。

約1時間の対談を収録し、ATACニュース編集委員が要点をまとめました。

荒川：本日はお忙しいところ、貴重なお時間を割いていただき有難うございます。大阪科学技術センターの30周年記念事業として平成3年4月にスタートしたATACの設立当初から現在に至るまで、大変お世話になっている小倉社長にATACの今後も含めてお話を伺いたいと対談を企画した次第です。

小倉：ATACはMATE研究会（大阪科学技術センターの中小企業異業種交流会）の提案で設立されましたが、当時私がMATE研究会の代表幹事をしており、若手育成・表彰制度などの企画もありましたが、OB技術者のさまざまなノウハウを中小企業に生かそうというATAC設立の案にすんなり決

まり、計算どおりうまくいかなかったらどうしようという責任を感じました。

荒川：ATACの発足以来、今日までたいへんお世話になりましたが、当初のがむしゃらさが薄れているようにも思いますが、小倉社長から見られてどうですか。

小倉：私の会社はATAC発足以来、途中1~2年途切れただけで、ずっとお世話になっていますが、今までは個人的なお付き合いの形だったのが、だんだん業務も拡大してくると、これからATACはどうされるのか気になっています。このまま拡大されて

いくと、顧客の中で同業者とのぶつかりも出てくるでしょう。

荒川：ATAC会員数は30人以上に拡大することは考えていません。そのためATAC・MATE奈良やATAC・MATE岡山ができ、次はATAC・MATE和歌山ができます。それを含めるとATACの活動は拡大しますが、本体は増やしません。

同業他社からの引き合いもいろいろ来ていますが、私は同じテーマならお断りしますが、テーマが違えばお受けしても良いと考え、ルールを作っています。小倉：そういうルールがあれば、われわれも安心してお願ひできます。また、30人の規模は増やさないと聞いていますが、後継者の問題はどうか考えておられますか。

荒川：差し当たり後継者の問題もありますが、当分は皆元気ですよ。

小倉：当社へ来ていただいている方も元気で、はりきって仕事を面白くやっていたいただいているのが、一番有り難いことです。技術ばかりでなく、人材教育までやっていたいただいて、満足しています。

荒川：ほかにATACへのご注文はございませんか。

小倉：特にお願いすることはありませんが、ATACにはできるだけ具体的なテーマを出してお願いするようにしています。そうすれば、ATACはすべて解決していただけるので助かっています。

荒川：本日は有難うございました。これからもATACをよろしくお願ひします。 (以上)

